

Microsoft Azure Lab Services 事前確認

注意事項	p1
演習環境	p1
[Azure Lab]への接続テスト	p2
[Lab 仮想マシン]への RDP 接続テスト	p3

■注意事項

この手順は、必ず トレーニング コース受講当日に使用する PC および 場所(ネットワーク)で行ってください。

- 演習用の PC は、Windows 10 以降をご使用ください。
- 演習用 Web ブラウザーは、Microsoft Edge、Google Chrome、Firefox などをご用意ください。
- 演習環境において、Internet Explorer はサポートしておりません。

■演習環境

- 演習環境となる Azure Lab 環境には、リモートデスクトップ(RDP)で接続します。
- Azure Lab 環境のリモートデスクトップは、受講者ごとに待ち受けポート番号が異なり、49152～65535 番ポートのいずれかを利用します。(デフォルトの 3389/tcp ではない点にご注意ください)
この為、ファイアーウォールの設定などで 49152～65535 番への RDP 接続が許可されていない場合は接続ができません。
※本番環境は、接続先の IP アドレスが異なります。
- Azure Lab 環境で RDP 接続する際の解像度はお好みの解像度で接続いただけます。(受講者環境で使いやすい解像度で問題ありません)

[Azure Lab]への接続テスト

1. トレーニング コース受講当日に使用する PC およびネットワークで、Web ブラウザーを起動します。
2. 【Azure Lab】にアクセスします。
接続先 URL:<https://labs.azure.com/virtualmachines>
3. サインイン画面で、次のテスト用アカウントでサインインします。
 - ・ユーザー名: testacademy@llabsoutlook.onmicrosoft.com
 - ・パスワード: A3L\$b#6emyTR34
 - Microsoft のアカウントを持っている場合、登録済みのアカウントで表示されますので、そちらではなく、上記のユーザー名でサインインをします。
 - [サインインの状態を維持しますか?]と表示されたら、[いいえ]をクリックします。
4. [Azure Lab]に[自分の仮想マシン]が表示されます。



⇒[Azure Lab]へサインインしました。

[Lab 仮想マシン]への RDP 接続テスト

1. 仮想マシンのスイッチボタンが[実行中]になっていない場合は、[停止]スイッチボタンをクリックして Lab 仮想マシンを起動します。



- ⇒ スイッチ ボタンの表示が、「停止」、「開始しています」、「実行中」と変わります。
(この処理には、少し時間がかかります)。

2. スイッチ ボタン[実行中]の右隣にある PC アイコンをクリックします。
(PC アイコンにカーソルを合わせると、[仮想マシンに接続する]と表示されます)。



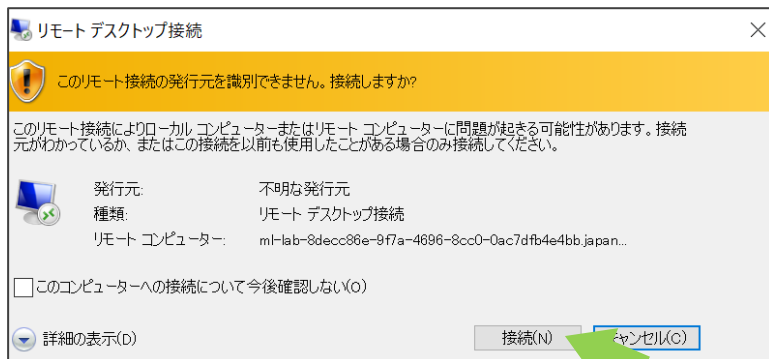
3. ダウンロードされた RDP ファイルをクリックします。



- ⇒ [リモート デスクトップ接続]の[このリモート接続の発行元を識別できません。接続しますか?]

と表示されます。

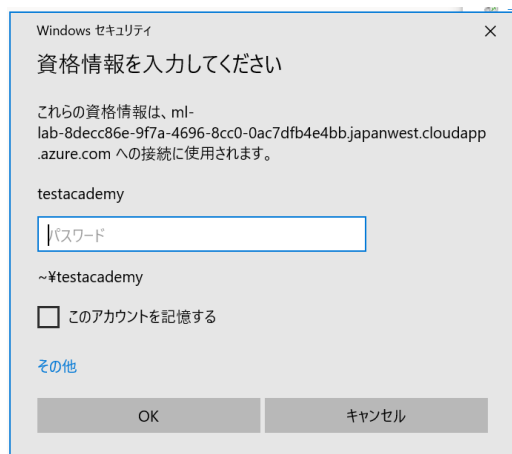
4. [接続]をクリックします。



⇒[資格情報を入力してください]が表示されます。

5. 以下のテスト用アカウントでサインインします。

・パスワード:A3L\$b#6emyTR34



⇒[このリモート コンピューターの ID を識別できません。接続しますか?]が表示されます。
[はい]をクリックします。

6. リモート デスクトップ接続の画面が表示されます。

⇒ Lab 仮想マシンへ RDP 接続ができました。

7. 画面上部の[×]をクリックし、リモート デスクトップ接続ウィンドウを閉じます。

8. 「リモート セッションは切断されます」というメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。
ここで、Azure Lab の画面に戻ります。

9. Azure Lab Services の[自分の仮想マシン]の[実行中]ボタンをクリックし、ステータスを[停止]に変更します(この処理には、少し時間がかかります)。
仮想マシンが [停止しています...] という状態になったことを確認します。



10. 【Azure Lab】 からサインアウトし、Web ブラウザーを閉じます。

- この環境は他の方も利用する共有の接続テスト用環境のため、ログオンが確認できたら速やかに接続を切断してください。
- この環境ではログオンの試行以外の操作は行わないようにしてください。
- RDP 接続後は、必ず自身で RDP を切断させるようにしてください。
- RDP 切断後は、必ず仮想マシンを停止させるようにしてください。